

平成28年度 全国T H P表彰

「富山小林製薬株式会社」進歩賞受賞

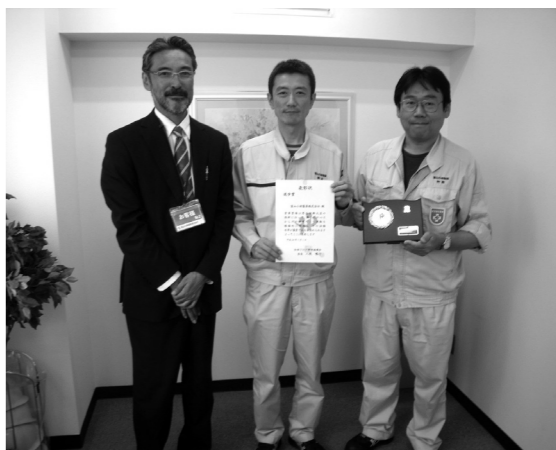
平成28年度全国T H P推進協議会表彰において、富山小林製薬株式会社が進歩賞を受賞されました。

平成28年7月4日(月)に富山県T H P推進協議会会長である当協会常務理事が、全国T H P推進協議会会長に代わり表彰状と盾を授与させていただきました。

富山小林製薬株式会社は、富山市に所在し、医薬品・医薬部外品・日用雑貨品に至るまで、

400アイテムを超える様々な製品を製造している事業所です。

平成19年よりT H Pに継続的に取り組まれており、腰痛予防や健康づくり教室の開催など、サービス機関を活用しての健康増進活動を含め、総合的かつ継続的に働く人の心とからだの健康づくりを推進してこられたことを評価され、このたびの受賞となりました。



第45回「富山県産業衛生大会」 T H P富山大会」が開催されました

富山県産業衛生大会(T H P富山大会)が7月14日(木)「ボルファートとやま」において開催されました。

T H P事例発表として、平成28年度全国T H P表彰の進歩賞を受賞された富山小林製薬株式会社の衛生管理者 山越智恵氏から「富山小林製薬の健康活動への取組み」と題し、職場の健康づくりにおける具体的な取組みや課題などを紹介いただきました。

T H P推進協議会、労働者健康保持サービスマン関係の当協会が「健康づくり相談コーナー」を開

設し、転倒リスクチェックを実施。同じく労働者健康保持増進指導機関のアピスポーツクラブより「行間体操」を行いました。

特別講演では、(有)トータルフィットネス企画 P U R E (ピュア)取締役で、N H Kのテレビ体操やN H Kくらしの情報に出演された、トータルフィットネスインストラクターの西本真寿美氏より「働き盛りの健康法」と題し、簡単な頭の体操やラジオ体操の動きをおりませて、笑いを取り入れながら体を動かすことの大切さについて講演がありました。



当協会の永田理事長、厚生労働大臣功績賞を受賞

永田義邦理事長が、このたび平成28年度厚生労働大臣表彰功績賞を受賞いたしました。

今回の受賞は、労働安全衛生法及びその他の法令に基づく健康診断、事後指導等の推進と、全国の健診機関の品質向上並びに関係事業場の安全衛生水準の向上発展に貢献してきた活動が評価されてのことです。

富山県内企業の従業員の健康を守る 産業看護職のスキルアップ!

「富山県産業看護研究会」

富山県産業看護研究会は、産業看護職が中心となって運営するサポートネットワークです。産業看護職には看護の専門家として、従業員の健康管理について質の高い実践活動が求められています。また、その期待に応えるためには生涯にわたる専門知識・技術の学習が不可欠となりますが、地方では一人配置の職場が多いことや専門的な研修会の開催が少ない実情があり、産業看護職の学習モチベーションを維持することは大きな苦労がありました。そこで、「身近な場で学びの機会を創りたい」と願う有志が集まり、平成16年に本研究会が設立されました。設立には富山産業保健総合支援センターの絶大なご理解とご支援がありました。現在は、富山産業保健総合支援センターに加え富山県産業医会のご支援・ご協力も得て、会員は約70名になりました。産業看護職にとどまらず、産業医、地域保健師、大学教員、その他、セクターを超えた会員構成が本会の特徴の一つです。

主な活動は、産業看護セミナーの開催、交流会の開催、ニュースレターの発行で、平成28年度は5人の世話人(関西電力/小野島、北陸予防医学協会/田添、富山トヨタ/長谷川、富山大学/中林、鳴尾)で運営を担っています。特に「産業看護セミナー」は他にはない良い試みであると感じており、大学院のゼミのような時間です。参加者は自社のデータを使い、データの解析方法や健康課題の抽出、産業看護計画の立案方法を学んでいます。自社データなので皆真剣です。

毎年3月には1年間のセミナー成果を「富山県産業看護研究会学術集会」で発表しています。学術集会には産業医や職場の上司等の参加もあり、発表後のグループワークは大変盛り上がりです。「他の会社の取り組みに刺激を受けた。自社の取り組みを見直したい。」多職種の方と議論することで自分の視野が広がった」等の声がかかります。さらに、発表者はここでの意見を参考に翌年は日本産業衛生学会等の全国規模の学会での発表に臨んでいます。今年度の学術集会は平成29年3月7日(予定)です。ぜひ一度、参加してみてください。

産業看護職のスキルアップにおいてサポートネットワークづくりは最も重要な課題です。みんなで富山の産業看護を盛り上げていきましょう。

当研究会に関するお問い合わせは

北陸予防医学協会 健康推進課

田添(富山県産業看護研究会世話人)

TEL076-436-1281までお願いします。



産業看護セミナー

平成27年度学術集会

新しく胸部X線デジタル検診車が仲間入りしました!

今年の6月から最新の胸部X線デジタル検診車が2台仲間入りしました。今までのフィルム検診車とは違い、デジタル検診車は撮った画像をその場で確認できるため、再撮影のリスクが大幅に低下し、撮影によるX線被曝線量も低くなります。さらに検診車の入口には受診者の安全を考慮し、観察用カメラを設置しました。皆様の事業所にお伺いした際はよろしくお祈りします。



「第57回日本人間ドック学会 学術大会」に参加しました

平成28年7月28・29日に長野県松本市で開催された「日本人間ドック学会学術大会」を、当協会職員が聴講してきました。



メインシンポジウム

「これからの時代における人間ドックへの期待」を聴講して

健康保険組合連合会 白川副会長・専務理事の講演では「保険者が求める人間ドック」と題し、健保連が半世紀以上行ってきた人間ドックの変遷や現在、保険者が関わる社会環境の変化に伴う人間ドックや人間ドック施設の課題について考察が行われました。

医療保険者の行う保健事業のアプローチとして、平成20年からの特定健診・特定保健指導の実施の義務化を経て、平成27年度からの「データヘルス計画」では、保健事業の評価と保健事業のPDCAの実効性が課題であり、人間ドックを提供する健診機関にとっても、事業場ごとの健康課題を俯瞰し、より効果的・効率的なサービスの提供が必要となっています。

また、人間ドック施設の課題として、「健診結果の活用が不十分」、「事後フォロー実施やデータフォーマットの統一」、「有効性・エビデンスを踏まえたがん検診の検査方法検討」を挙げ、健診機関の今後の取組みが期待されました。当協会でも医療保険者が行うがん検診の受診率向上や効果的・効率的な保健事業の支援に努めたいと思います。

「受診者サービス」「施設運営」 「受診勧奨・フォローアップ等」を聴講して

人間ドック受診者へのサービス向上につながる発表に関心が高いようでした。特に待ち時間を短縮することは多くの施設の課題のようで、健診受付時間を細かく設定することで受入人数を調整する、検査の所要時間を分析して滞りのない流れを検討し、健診をスムーズにするなどさまざまな工夫をしているとの報告がありました。

そして、最新の健診システムを導入し、自動化による事務作業の軽減、検査の通過管理をすることで検査の漏れを防止できるようになったとのこと。要受診判定の方への受診勧奨のほか、生活習慣病の追跡検査・フォローアップの実施への取組み報告も紹介されました。

また、人間ドックを受診していただく際は、専門職からの結果説明や専門的知見を踏まえたフォローアップができ、受診者の行動変容を促す機会でもあります。

当協会においても、受診される方の満足度、毎年受診したくなるような施設を目指すために、より顧客満足度の高いサービス提供ができるよう取組んでいきたいと考えています。



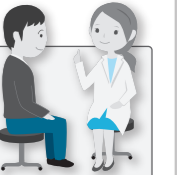
メンタルヘルスータルサポート

～ストレスチェック制度の具体的内容をサポートします！～

Point 1 ストレスチェック体制整備から職場環境改善までワンストップサービス！
支援専門家が、個別に訪問してストレスチェック導入から職場環境改善までをサポートします。

Point 2 定期健康診断との同時期実施可能です。
名簿受領 → 健診前記入 → 回収 → 健診結果と同時に納品 → アフターフォロー

Point 3 健康診断機関として心身両面の相談にも対応可能
■健康相談 労働安全衛生法(第66条の7)
保健師が、心身両面からの健康相談をいたします。健康診断の結果の見方や結果に基づいて生活習慣病の予防や改善について、またストレス解消法についてアドバイスいたします。



Point 4 地域臨床機関等との連携で面接指導までサポートします。
産業医と面接指導医をつなぐ架け橋となります。

Point 5 実施事務担当者様と面接指導対象者(高ストレス者)の相談対応をします。
★結果納品後、2カ月間サポートします！

サービス内容	ストレスチェック短期サポート			
	ベーシック	ベーシック(医師面談)	アドバンス	プレミアム
I 電話・メール相談 (対象者)実施事務担当者・高ストレス者	◎	◎	◎	◎
II 来所型 カウンセリング	◎	◎	◎	◎
III 巡回型(事業場訪問) 構造化面談と保健指導 半日3人まで/保健師	△ オプション			
IV 産業医への相談内容提供 (同意獲得内容のみ)	◎	◎	◎	◎
V 医師面接窓口設置 (面接申出先は事業所担当者様となります)		◎	◎	◎
VI 医師による面接指導 (精神保健指定医を含む)		△ オプション	◎県内	◎県内
VII 職場環境 アドバイス(研修)	△ オプション	△ オプション	△ オプション	◎

Point 6 職場集団分析から職場環境改善アドバイスまで対応します。
分析結果をもとにラインケア・セルフケアセミナー実施

項目	対象者	項目	対象者
A 職場におけるメンタルヘルス	全従業員	F 周囲が気がつく不調	全従業員
B ストレスの基礎的知識	全従業員	G 職場復帰支援	管理者
C 管理監督者のためのメンタルヘルス	管理者	H 実践! リラクゼーション	全従業員 (30名程度)
D ストレスチェック制度について	安全衛生委員会 メンタルヘルス 担当者	I グループワーク	全従業員 (20名程度)
E ハラスメントを防ぐ	全従業員		